

## 第132回「防災アカデミー」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月19日(水)、減災館1階減災ホールにおいて、第132回防災アカデミーを開催しました。充填技術協会会長でもある川本朧万名誉教授が、「地下空洞と地盤災害」と題した講演を行い、当日は102名の参加がありました。

講演は2部構成で、前半は、川本名誉教授から京都府立



講演をする川本名誉教授

京都第三中学校（現・京都府立山城高校）在学中に、動員学徒として愛知県半田市の中島飛行機製作所にて勤労奉仕していた折の、昭和19年12月7日の昭和東南海地震による被災経験が紹介されました。この地震では川本名誉教授の学友13名が犠牲になりました。当時は、戦時下であり、被害状況等は国民に知らされず、記録もほとんど残っていない中、後に当時の同窓生により体験談や日記等の関連資料を持ち寄り「紅の血は燃ゆる」と題する書籍を発刊しました。この書籍は川本名誉教授からの寄贈により、減災館の展示コーナーで閲覧することができます。

後半は、中部地域に分布する亜炭鉱の掘削跡地など地下空洞が及ぼす浅所陥没や崩落などの地盤災害が、南海トラフ巨大地震により助長されることが紹介されました。現在、事前防災の取り組みとして、地下空洞を充填する対策工事が岐阜県御嵩町などで実施されている事例についても紹介されました。参加者一同、川本名誉教授の熱い語り口に引き込まれ、講演時間の1時間半があつという間に終了しました。

## 「夏休みスペシャル減災教室2017」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、8月2日(水)、減災館において、夏休みスペシャル減災教室2017を開催しました。今年度は、「実験ゆれる減災館」として、減災館の全体加震を体験するところからスタートしました。

福和同センター長によるスペシャル減災実験教室では、実験用教材キットを用いて、地震と建物の揺れについて



スペシャル減災実験教室の様子

様々な実験を行い、地震に強い建物とはどんな建物なのかについて勉強しました。幼稚園から中学生までの子どもたちが、液状化の仕組みを実験する「液状化をためそう!」、防災用のロープの結び方を学ぶ「防災ロープ」、受託研究員によるオリジナル体操「減災館体操」、減災館モニタリングシステムを見ながら、皆で跳んで減災館の揺れを見る「みんなで減災館をゆらそう!」、備えの知識をかるたで学ぶ「防災カルタ」、体感型振動・防災教材「ぶるる」を使った実験をする「ぶるるの実験」、「多段ぶるるで振動体験」、いざというときの「10秒呼吸法」、ぬりえで防災・減災を学ぶ「防災ナマズンぬりえ!」の各ブースで、身体を動かしたり、実験したりしながら、防災・減災について学びました。「減災館ツアー」では、減災館のひみつを見て回りました。

昨年度の夏休みスペシャル減災教室に参加されたりピーターも含め、多くの子どもとその保護者の方々が参加し、大盛況のうちに終わりました。